

後期古墳時代の天皇陵の変遷 (前方後円墳から八角墳へ)

坂東久平

1. 大型前方後円墳の消長

大型の前方後円墳（200m以上の古墳）は大王クラスの人だけに許されたもので、3世紀の箸墓古墳に始まり、6世紀の五条野丸山古墳（考古学者は欽明天皇陵：宮内庁は梅山古墳を欽明天皇陵に治定）を最後とし、これ以降は小型前方後円墳、円墳、方墳や八角墳へと変わり、8世紀の奈良時代には円丘（聖武天皇陵など）になってしまいます。

(7月研修会のお復習)

弥生時代（紀元前5世紀～紀元3世紀）（近畿では紀元前3世紀～紀元3世紀）に、ムラが発生しそれが統合、巨大化して行きます。初期に方形周溝墓、方形台状墓、円形周溝墓が出現し、後期には円形台状墓に変化します。

円墳、方墳などが出現し、次第に大型化して、出雲では四隅突出型弥生墳丘墓、吉備では楯築遺跡（たてつきいせき）：双方中円墳、宮山古墳が出現します。ここで円筒埴輪の原型となる特殊壺、特殊器台が出現します。

特殊器台、特殊壺は大和に伝わり纏向型前方後円墳にも見られます。

(大和での特殊器台は3世紀末頃には姿を消し円筒埴輪に移ります)。

3世紀中頃に最初の大型前方後円墳：箸墓古墳(278m)が誕生します。

この時期には、円墳、帆立貝形前方後円墳なども造られますが、身分の格差に応じて古墳の形や大きさ、埴輪の種類などが異なります。

別紙の「古墳編年」(白石太一郎：2013年6月補訂)は、箸墓古墳から五条野丸山古墳までの大型前方後円墳を年代別、地域別に整理して作成されています。(大型前方後円墳：200m以上のもの)



2. 後期古墳時代の天皇陵 (考古学と宮内庁を比較)

* 歴代天皇 (継体天皇から文武天皇まで)

別紙にてお話しを進めます。

: 別紙参照

* 森浩一リスト : 左図参照

森先生が天皇陵について纏められました。
(最後の著書「天皇陵古墳への招待」より)

分類記号の説明

- ? : 他を検討すべし
- : 付近に適当な古墳あり
- : 妥当の様であるが、決め手を欠く
- : 殆ど疑問が無い

天皇陵リスト 森浩一試案 (2011年)

天皇	現在の陵の所在地	墳形	備考
開化	奈良県奈良市	前方後円	△
崇神	奈良県天理市	前方後円	●
垂仁	奈良県奈良市	前方後円	△
景行	奈良県天理市	前方後円	●
成務	奈良県奈良市	前方後円	●
仲哀	大阪府美濃市	前方後円	*
志神	大阪府羽曳野市	前方後円	●
仁徳	大阪府堺市	前方後円	△
履中	大阪府堺市	前方後円	△
反正	大阪府堺市	前方後円	●
允恭	大阪府美濃市	前方後円	●
安康	奈良県奈良市	山形	? □
雄略	大阪府羽曳野市	円?	○
清寧	大阪府羽曳野市	前方後円	*
額宗	奈良県香芝市	前方後円?	?
仁賢	大阪府美濃市	前方後円	*
武烈	奈良県香芝市	山形	?
継体	大阪府茨木市	前方後円	□
安閑	大阪府羽曳野市	前方後円	●
宣化	奈良県橿原市	前方後円	○
欽明	奈良県明日香村	前方後円	□
敏達	大阪府太子町	前方後円	□
用明	大阪府太子町	方	○ □
崇峻	奈良県桜井市	円	? □
推古	大阪府太子町	方	○
舒明	奈良県桜井市	八角	○
孝徳	大阪府太子町	円	●
斉明	奈良県明日香村	八角	□
天智	京都府京都市	上八角下方	○
大友皇子	滋賀県大津市	円	?
天武・持統	奈良県明日香村	八角	○
文武	奈良県明日香村	山形	?

△墳丘の型式が天皇の順位とはなれていない。
? 古墳として疑問、ほかに候補地を求めたほうがよい。
□ 付近により適当な古墳があり、検討すべきである。
* 付近に可能性のある古墳があり、検討の余地がある。
● 妥当なようであるが、考古学的な決め手を欠く。
○ ほとんど疑問がない。

3. 梅鉢御陵

磯長谷古墳群は宮内庁から治定されている天皇陵4基（敏達天皇陵・用明天皇陵・推古天皇陵・孝徳天皇陵）と、聖徳太子廟など約30基からなる古墳群です。

天皇陵4基と聖徳太子廟の5つの古墳は、梅の花びらになぞらえて「梅鉢御陵」（うめばちごりょう）と総称されています。



4. 八角墳について

段ノ塚古墳（舒明天皇陵）：80 x 110の前方後円形、42mの八角墳

押坂内陵、形は上円下方とされるが、実際は上八角下方墳と見られています。

陵内に糠手姫皇女押坂墓（合葬）、領域内に鏡女王押坂墓があります。

山田上ノ山古墳（孝徳天皇陵）：30mの八角墳

大阪磯長陵、

牽牛子塚古墳（斉明天皇陵と推定）：22mの八角墳

越智岡上陵

岩屋山古墳から改葬されたと推定

岩屋山古墳：45mの八角墳（円墳）

（被葬者・斉明天皇は牽牛子塚古墳に改葬されたと推定）

御廟野古墳（天智天皇陵）：70mの八角墳

山科陵、

野口王墓（天武・持統陵）：58mの八角墳

檜隈大内陵、1880年に高山寺から阿不幾乃山陵記が発見され治定替えされました。

東明神古墳（草壁皇子と推定）：58mの八角墳

真弓丘陵、岡宮天皇の諡

中尾山古墳（文武天皇陵と推定）：29mの八角墳

檜隈安古岡上陵、火葬墓

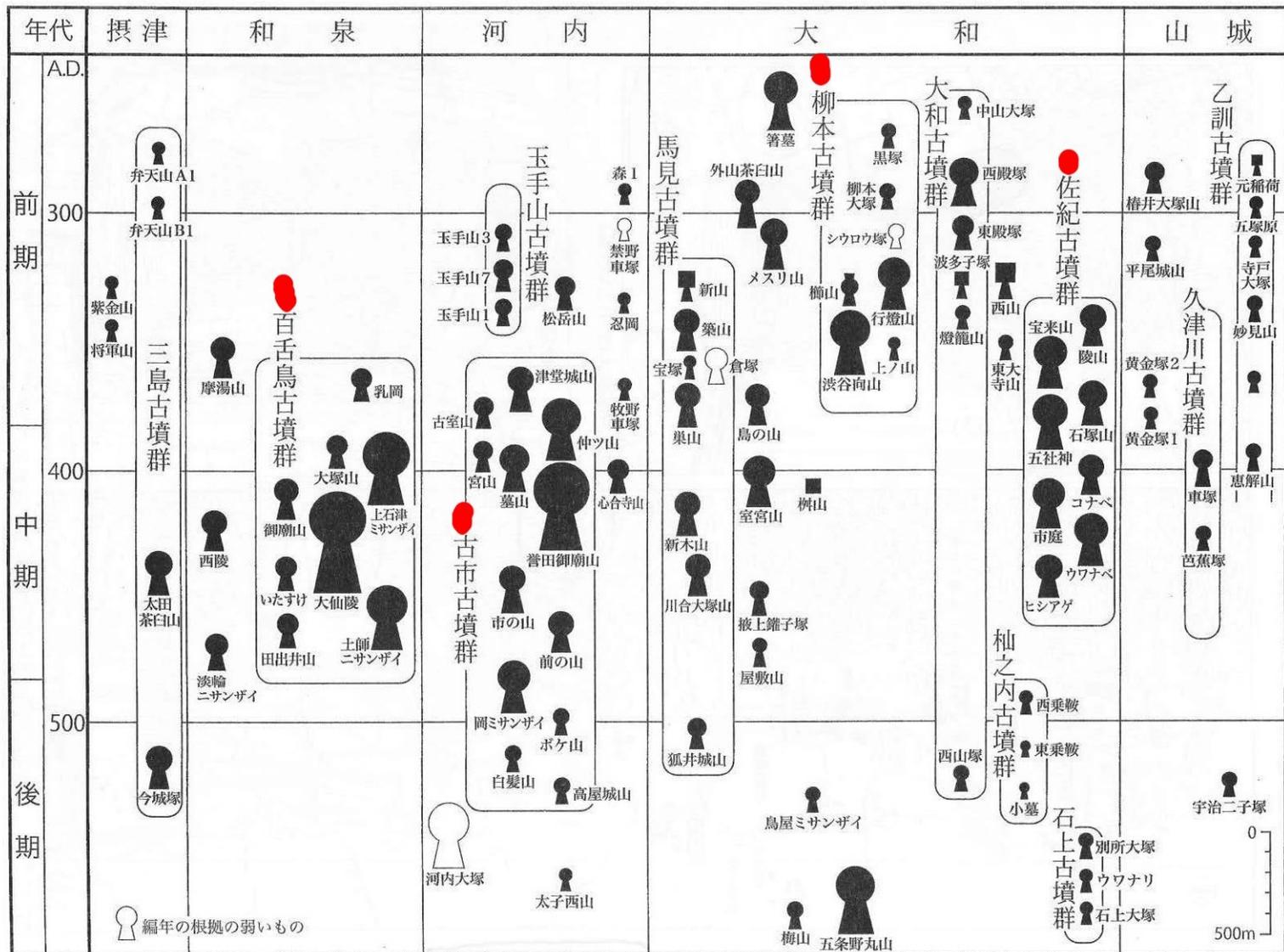
（参考） 東日本の八角墳（4基）

東日本では稲荷塚古墳（38m）、伊勢塚古墳（27m）、三津屋古墳（24m）、の経塚古墳（12.5m）が確認されており、八角墳は全てが天皇陵ではないとされています。

日本全国でおよそ15万基造られた古墳の内、八角墳は15例ほどしかありません。

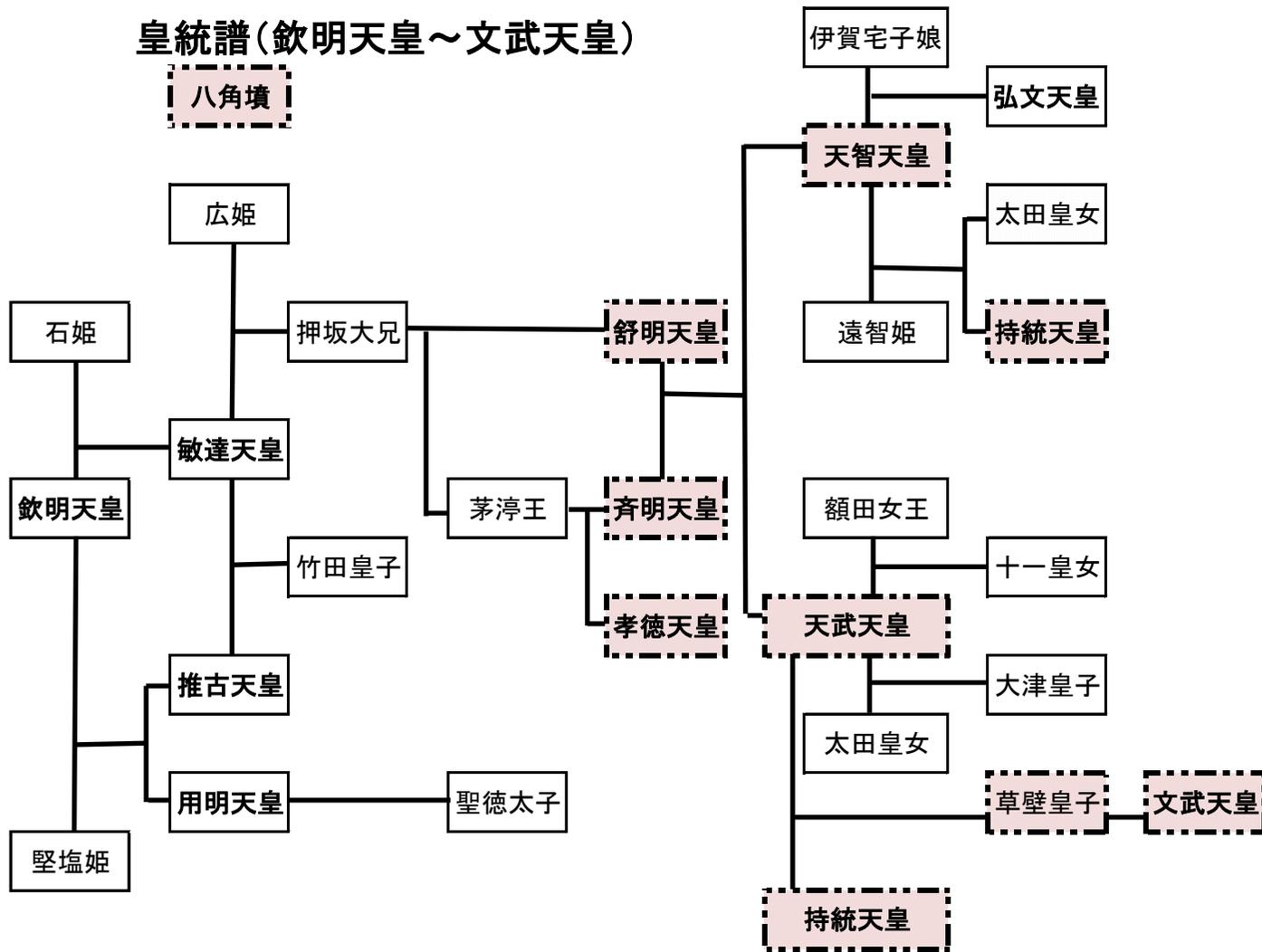
畿内における大型前方後円墳（200m以上）の編年

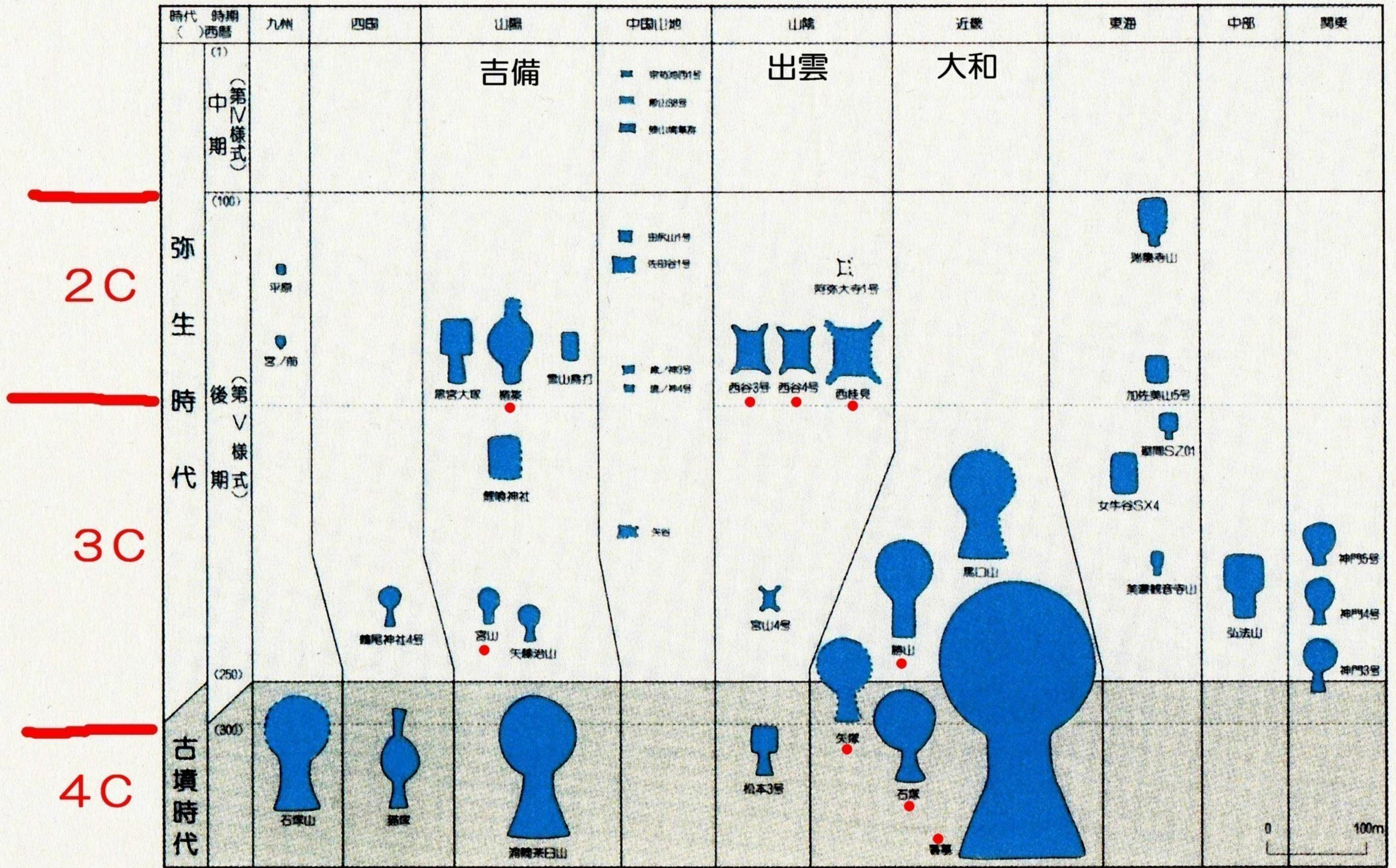
(2013年6月 補訂)



皇統譜(欽明天皇～文武天皇)

八角墳





各地の弥生時代から古墳時代の墓（安藤広道 1995 『弥生の“いくさ”と環濠集落』横浜市歴史博物館原図、伊藤実1995 『古墳誕生の謎をさぐる—特殊器台からはにわへ—』広島県立歴史民俗資料館転載）

壬申の乱 余話

「河内の馬飼集団と鷓野讚良皇女」・・・日本書紀の点と線

①馬文化の伝来

- ・魏志倭人伝に「倭国に牛馬なし」
- ・応神天皇15年、百濟王から良馬2頭が送られる。馬を引いてきた阿直伎に軽の坂上で養わす。(最古の記録)

②乗馬風習は5世紀に急に広がる・・・古墳時代中期から馬具の副葬品が急増する

- ・履中天皇5年の条、淡路島の狩りくだりで、馬飼いに刺青することをやめる。
- ・雄略2年の条、吉野での狩りのくだりで、大津馬飼を斬ったという記述(難波大津か)
- ・雄略天皇9年の条、河内飛鳥戸郡の田辺史伯孫が誉田陵で埴輪の馬と自分の馬を取換えた。
- ・古墳の副葬品に馬具の出土が急増する。

③6世紀の河内の馬飼集団の存在

- ・継体天皇元年(507年)の条、河内馬飼首荒籠(あらこ)が天皇の即位にあたり大いに功績あり、以後厚く遇されたという記述がある。

《コメント》

- *古代河内湖の北岸・東岸から淀川河畔、から生駒山の西麓にかけての一带には、5世紀以降、馬の飼育を業とする朝鮮半島よりの渡来人の集団がいた。
- *継体天皇に出てくる河内馬飼首荒籠は、淀川の樟葉あたりの馬飼部族の首長であった。牧で飼育される膨大な馬匹を支配するとともに、馬の提供を介して築かれた情報網によって継体天皇を背後から支えた。継体天皇が大伴金村から即位を要請されて、親交のあった河内の馬飼首荒子から諸般の情勢を聴取して、安全を見極めて即位に踏み切ったであろう。(和田萃氏)

④鷓野讚良皇女と河内国讚良郡鷓野邑

- ・この地名は、欽明23年7月の条「新羅の使いが止まって本土に帰らず。河内国の更荒郡鷓野邑の新羅人の先なり」とある。
- ・新撰姓氏録によると宇奴連(うぬのむらじ)は、新羅王子「金庭興」の末と称する氏族である。

⑤「四条畷市民俗資料館特別展示」より抜粋

- 「讚良郡鷓野村(さららぐんうのむら)は、現在の四条畷市岡山・砂のあたりと比定する。西へ流れる川は讚良(さんら)川で、周辺に多くの馬飼いの遺跡がある。
- ・五世紀以降馬と共に渡来人が到着して牧場を展開したことは、馬飼いの遺跡が示している。
- ・大和朝廷と密接な関係を持った馬飼いの里の首長の存在から考えて、「鷓野讚良」はこの土地で過ごしたと断定して差し支えない(前掲特別展)。

《四条畷市の関連遺跡》

- * 忍岡古墳・・・古墳時代前期前方後円墳 全長8.7m 古代河内湖を一望に見渡せる河内湖を掌握した豪族の古墳と推定されている。
- * 葦屋北遺跡・・・古墳時代中期。河内湖に近い渡来人馬飼集落跡、馬骨一体分が発見された。馬を海上輸送したと思われる準構造船の船材、韓式土器、製塩土器（馬用）が出土。朝鮮半島との交流の玄関口の一つ。
- * 更良岡山古墳群・・・古墳時代後期古墳、周溝付近に馬の頭部が出土、被葬者の馬か？
- * 大上古墳群・・・古墳時代中・後期古墳、帆立貝型前方後円墳全長4.5mを含む。渡来系馬飼集団の古墳で、朝鮮半島の陶質土器が出土
- * 忍岡駅前遺跡・・・人物（渡来系？の帽子をかぶる）、仔馬の埴輪
- * 奈良井遺跡・・・古墳時代中・後期の大型方形集溝遺跡。馬の祀り場所と思われる。多くの馬の首（生贄か？）、人形・馬形、祭祀井戸に多くの桃の種。
- * 讃良郡条里遺跡・・・古墳時代中期。稲作（稲の切株、足跡など）の遺跡

朝鮮半島から玄界灘の荒波を越えて、馬を連れての旅は命がけだった。渡来人は葦屋北の湖辺で馬をおろした。次第にそこは多くの人や馬が行き交う賑やかなムラとなっていく。讃良の馬飼集団は、陶質土器や韓式系土器を大量に使って祭りを繰返し行っていた。讃良の馬は小型の蒙古系の馬だった。放牧するには広い草地が必要だったが、河内湖から飯盛山に向かう緩やかな傾斜地と東西に流れる幾筋もの川に流れがこれに適していたと思われる。

難しい調教を施したり、さらには馬の御者の役割も果たした。馬の交易を通じて、大王家や各地の豪族との間に多くの接点が生まれたに違いない。

⑤その後の河内の馬飼いについての記述

- ・天智7年7月の条には、「多（さわ）に牧を置きて馬を放つ」。
- ・天武12年9月、「倭馬飼造、川内馬飼造らを含む三十八氏に「連」の姓を賜う。
同年10月、「娑羅羅馬飼造」、「菟野馬飼造」に「連」の姓を賜う、の記事あり。天武朝の「八色の姓」の中に位置づけられている。

⑥讃良の馬飼いの終焉

- ・天武13年4月の条、「およそ政治の要は軍事である。文官、武官みなつとめて武器を使いこなし、馬を乗りこなすことを習え」。
- ・文武4年3月の条に「諸国に牧地を定め牛馬を放つ」がみられ、全国的な官牧が始まり、奈良時代には法律で厳しく管理されることとなる。

讃良の地で育った馬は、150年にわたって王朝に供給され王権を支えたが、奈良時代には全く姿を消してしまった。馬の重要性が高まり、国の牧が定められ、法律で厳しく管理されるようになったためであろう。

(古川 記)

四條畷の古墳時代

—王権を支えた馬飼いの里—

北河内は、明治時代より、四條畷市・枚方市・交野市・寝屋川市・門真市・守口市・大東市の七市で構成され、現在に至っています。北河内は、古代には河内湖（潟）の湖畔に位置していました。

讃良郡は、古代の郡制度によって制定されました。四條畷市全域・寝屋川市南東部・大東市北部の範囲をいいます。日本書紀などには、讃良の氏・地名が記載されています。

古墳時代の中ごろに朝鮮半島から最新の技術が河内に伝わりました。難波の海につながる河内湖は国内外の交流が活発だったのでしょう。

- 四條畷市は馬の飼育
- 柏原市・交野市は鉄の加工
- 堺市・大阪市・吹田市は須恵器の焼成

当時の大阪市は湖の中で、今の大阪湾に続いていました。四條畷市部屋北遺跡（●）は河内湖の水際近くだったと考えられています。

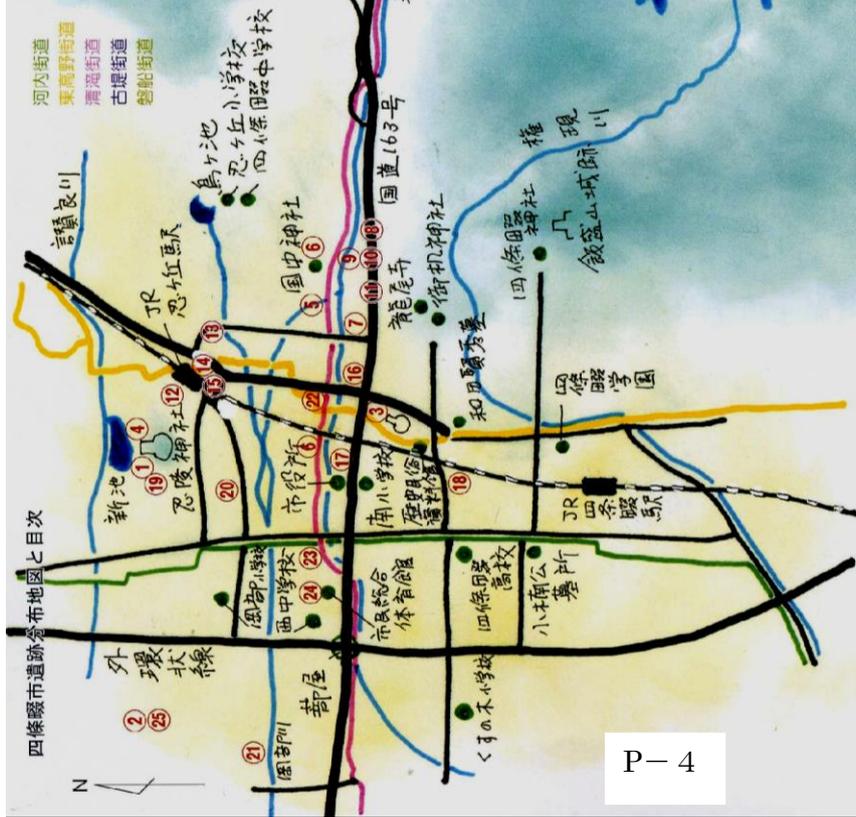
讃良（四條畷周辺）は、海や湖などを介して、国内外との交流が活発に行われたのでしょう。

④ この冊子で記述している古墳時代の馬は、すべて120～130cmの蒙古系の小型の馬です。

大阪府地図



四條畷市遺跡分布地図と目次



- ① 王苜の古墳 忍岡古墳 ……………5
- ② 新発見 忍岡古墳を支えた集落か 讀良郡桑里遺跡 ……7
- ③ 墓地となった前方後円墳 墓ノ空古墳 ……9
- ④ 馬の頭を埋葬 更良岡山古墳群1号墳 ……9
- ⑤ 高台の古墳に馬の頭を埋葬 清滝古墳群2号墳 ……10
- ⑥ 古墳の石棺をリサイクル 国中神社・中野正法寺 ……11
- ⑦ 周溝に人を埋葬 大上古墳群1号墳 ……13
- ⑧ 二重の周溝をもつ古墳 珍しい古墳は誰の墓? 大上古墳群3号墳 ……14
- ⑨ 周溝に陶器土器 瓦削い真団のきずな 大上古墳群4号墳 ……15
- ⑩ 金メッキのイヤリング 大上古墳群5号墳 ……15

- ⑪ 眼下を望んで祭祀 国道163号の調査 城遺跡・本間池北方遺跡 ……16
- ⑫ 琴を弾くのは神のため 忍ヶ丘駅前1号墳 ……17
- ⑬ 日本最古級の下駄 岡山南遺跡 ……17
- ⑭ 忍ヶ丘駅前は塙輪がサクサク 忍ヶ丘駅前遺跡 ……18
- ⑮ やさしい表情が魅力 南山下遺跡 ……19
- ⑯ 朝鮮半島からの舶載土器 陶質土器と韓式土器 ……20
- ⑰ 溝や井戸で馬を犠牲にした祭祀 中野遺跡 ……21
- ⑱ 祭祀は溝や川で 南野米跡遺跡 ……22
- ⑲ 聖水を注いだ? 構形はそう 北口遺跡 ……23
- ⑳ 井戸の神様にお供え 奈良田遺跡 ……23
- ㉑ 愛馬の埋葬 部屋北遺跡 ……24
- ㉒ 法毛寺 東谷池

- ㉓ 馬のまつりは、いげにえが必要 奈良井遺跡 ……25
- ㉔ もう一つのまつり場 鎌田遺跡 ……27
- ㉕ 米づくりも頑張る 鎌田遺跡 ……29
- ㉖ 水害にも負けず米づくり 讀良郡桑里遺跡 ……29
- ㉗ 田原の古墳時代 森山遺跡 ……30
- ㉘ まとめ ……30